

2022 年度事業報告

学校法人いづな学園

学園理念

飯綱の自然の中で五感を育み、感性豊かな子どもを育てます

私たちいづな学園は、自らが幸せな人生を選び取る 自律した人を育てます

人が持つ違いを違いとして理解し、世界の多様な文化、伝統、考え方を尊重し共生できる人を育てます

1. いづな学園事業報告

<概 要>

2022 年度、幼稚園は3 歳児の入園者数が定員の半分という厳しい状況となった。しかしながら、グリーン・ヒルズの児童生徒数は、小学校3 名、中学校6 名増と厳しいながらも明るい状況となった。

いづな学園を持続可能な、小さくても光る学校としていくために、この状況を改善するべく、理事会・評議員会において対策案を出したが、具体的な動きについては次年度に課題を残した。

<事業報告>

- 1) こどもの森幼稚園からグリーン・ヒルズ小学校、グリーン・ヒルズ小学校から中学校への入学生の増加のために、学園理念を共有し一体感のある学園づくりを目指しているが、まだまだ十分ではない。幼稚園ではグリーン・ヒルズのオープンデーへの呼びかけを行い、小学校からは保護者への案内の機会をつくったが、今後も地道に継続していく必要がある
- 2) 経営基盤づくりのために、広く安定的に寄附の募集の推進のため、ふるさと納税制度を活用した長野県のふるさと応援基金に参加した。2023 年1 月から実施でまだ結果つながらないが継続して広めたい。
- 3) ネイティブの講師を招き、国際理解教育、コミュニケーション力の充実を図り、グリーン・ヒルズ小学校の国際バカロレアの認定を目指し探究カリキュラムづくりと実践を行い、見学にた方からも内容について評価を頂いている。
- 4) 学園業務の全般において、ICT の活用により業務の軽減と学園内の速やかで確実な情報共有・連携を図った。合わせて小中学校において、専門家によるプログラミング教育の充実を図った。
- 5) 「みらいの教育推進室」を中心に、善光寺門前イノベーションタウン構想の街づくりに参画し子育て・教育の方面から、保育施設の設定を目指してきたが、具体的施設と制度の中で合意には至らなかった。

<施設・備品整備>

- 1) 教育環境の向上にむけ、以下の整備を進めた。
 - ・購入した保養所を「セミナーハウス」とし、水道、ガス、ボイラーなどの回復工事を行い研修施設として活用を開始した。
 - ・補助金の活用により、グリーン・ヒルズ南校舎に空気清浄機能付きエアコン5 台を設置し教育環境の充実を図った。

2. こどもの森幼稚園事業報告

1. 概要

2022年度も幼稚園活動に新型コロナウイルス感染症の影響が見られたが、信州型自然保育の特化型施設である強みを活かして野外での活動を中心に教育事業を展開し、保護者参加行事や子育て支援などもほぼ計画通り行った。

2022年度に行った事業は、以下のとおりである。

- 1) 幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に即して、仲間、先生達と共に生まれる創造的な活動（プロジェクト）表現活動を通して培われていく教育を展開した。
- 2) つぼみ子育てサロンでは、会員獲得のために活動前の体験会を行い、前年度同様単発の参加形態も継続した。
- 3) 未就園児対象のオープンDAYを春と秋それぞれ2回、合計4回開催。また、子育て支援も合計3回行った。
- 4) 教育支援体制整備事業（園務改善のためのICT化支援事業）の補助金を利用して、LeySerKidsシステムを導入し、園務・事務の軽減を図った。
- 5) 保護者からの提案を受け、幼稚園前の県道404号栃原北郷信濃線及び幼稚園入口における園児安全確保の検討・整備を行った。
- 6) スーパーバイザー内田幸一氏による、「組織の在り方について」の研修開催、園庭施設の整備を行った。

2. 2022年度の教育における重点目標と達成度

本年度の重点目標は以下のとおりで、学校評価の結果としては保護者A評価（達成できた）、教員B評価（比較的達成できた）となった。

- 1) 自然体験を中心においた教育の充実を図る
- 2) SDGsを念頭に入れながら活動を行う
- 3) 園児、保護者及び教職員の個々の考えを大事にし、お互いの意見を尊重しながら主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指す。コミュニケーションの充実を図る。

3. 2022年度事業の報告

本年度の主な事業計画の遂行について、以下のとおり報告する。

1) 自然体験を中心においた教育の提供

- ・ 自然の中での散歩や遊びを通して、発見した「不思議」をテーマに沿って探究した。
- ・ 年長児、お散歩（青プロ）のドキュメンテーションを担当と子どもで作成し、卒園時に保護者と共同で、「青プロ本」の作成をした。
- ・ 年間を通しての河川教育からの学びを記録・考察したことが、河川財団より優秀成果表彰校の受賞を受けた。また河川財団交流会で自園の事例発表を行った。
- ・ 子どものつぶやきを継続的に記録し、育ちを見取る。（ICTの活用）
- ・ 自然における子どもたちの興味関心を、音楽、絵画、言語などの表現活動やプロジェクトへと繋げる
- ・ 地域資源、人的資源の確保および活用（森の駅オープンに伴い、だいだらぼっち作りなど）

2) SDGs、自然の中、生活の中でつながっている命のため、子ども大人ともに出来る事を考え実行する

- ・豊作だった栗のイガを活用しての染物、廃材等を用いた作品を作り、子どもたちの秋のお店屋さんの作品とし保護者にはどんぐりのお金で買い物をしてもらった。
- ・がらくた座による使い古しの衣類や日用品を用いた命の尊さを伝える人形劇などを、親子で鑑賞した。

3) 人間関係の構築

- ・子どもたちの人間関係を丁寧にとり、お互いの違いを知り、理解して認め、仲間としての絆をつくりあげられるよう配慮した。
- ・CAP（人権教育）での学んだことを、具体的に子ども同士の場面で一緒に考えて子どもの関係性を良好に保つよう努力した。

4) 自然教育課程の明確化

- ・スーパーアドバイザーとして創設者の内田幸一氏を迎え、自園の教育課程を見直すとともに、組織体制について職員へ研修していただいた。少しずつ、職員で話し合っ決めていく体制が形成されている。

5) 子育て支援の充実

- ・子育て館「野愛(のあ)」を会場として子育て支援を開催予定であったが、例年通りのヨガ親子体験と相談会（睡眠）の開催にとどまった。また、園舎で内田幸一氏による講演『野外教育から育つもの』を開催した。
- ・保護者会（どんぐりの会）で自主活動を開始し、交流、相談し合い、絆を深めた。また、お料理日の手伝いなど、園活動へも協力をいただいた。

6) Google 活用、システムの導入を行い、職員間や保護者とのコミュニケーション、各種料金通知などが大変円滑になった。

7) 子育て世代へSNSによる情報発信を行うため、幼稚園とつぼみ子育てサロンでInstagramの登録を行い、それを利用した広報活動を開始した。

8) スーパーバイザーの内田幸一氏により園庭及び園庭遊具の整備を行っていただいた。

4. 次年度への検討課題

1) 昨年度に引き続き、以下の点について検討、計画、実施に繋げるために学園の創設者である内田幸一氏にスーパーバイザー継続を依頼する。

①園庭及び園庭遊具の整備、園庭遊具用の点検・指導をしてもらう

②こどもの森幼稚園の教育カリキュラムの構築

2) 引き続き、園長、副園長が連携しながら今までのこどもの森幼稚園が大切にしてきたものと、今の時代にあったニーズや考えを精査し、子どもを中心に保護者、職員間とのコミュニケーションを密にすることを大切にする。それぞれに認め合っ譲り合っっていくことを忘れず、子どもにも大人にも向き合う。それにより園児、保護者及び教職員の個々の考えや意見を尊重しながら、主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指す。

3) また、インスタグラムなどのSNSの活用によって少しずつ成果が見られているため、引き続き細やかな情報発信を行っていく。

4) 今年度は春の無料体験会が功を奏し、つぼみ会員数が前年度の2倍ほどとなったが、2023年度の入園者数充足には至らなかった。入園を見合わせた見学者の8割が共働き世帯で、入園を強く希望されたにも関わらず入園申込をされなかったことから、共働き世帯の入園にはハードルが高いことが大きな要因と考えられる。来年度は更に少子化が進むため、早急な対策の検討が必要と考えられる。

- 5) つぼみ子育てサロンの会員数を増やすための対策として、0～1歳児向けの「ふたばルーム」を開催し、子育て館「野愛」での読み聞かせや相談業務を行う。
- 6) 今年度整備ができなかった園庭横の沢の整備を、2023年度は河川財団の助成金を活かして完了させる。

3. グリーン・ヒルズ小学校及びグリーン・ヒルズ中学校 事業報告

1. 2022年度グの運営の視点と具体的な取組について

以下の3つの視点で運営の改善を行った。

(1) グリーン・ヒルズのアイデンティティ

- ①学校法人いづな学園理念の全面的な打ち出し
 - －キーワードの意識化「五感」「自律」「共生」
- ②国際バカロレアと並ぶGH独自の教育プログラムの構築
 - －「五感を育むP」「実践的野外活動P」「国際バカロレアP」
- ③見える化
 - －ホームページ、グリーン・ヒルズ通信への掲載
- ④「グリーン・ヒルズらしさ」の自問
 - －ひとつひとつを丁寧に振り返り、学園理念に沿う新たな方向を見出す

(2) 教育者としてのプライド

- ①教育免許を持っている教育者としてのプロ意識
 - －学習指導要領を咀嚼し、カリキュラムに落とし込む
 - －基礎学力の定着を図る指導
 - －欠席する子どもへの対応（連絡の受け方、対応方法の見直し）
- ②目的を明確にした行事・指導計画立案
 - －目的、ゴール、意義等を意識した企画立案
 - －前例に囚われず、常に「自明を問う」思考回路
- ③一般社会に通用する言動
 - －服装、言葉遣い、対外書類の作成様式
 - －会計等、基本的なルールを知る
- ④子どもへの過剰な対応の見直し
 - －本来の「自律」を目指した指導への転換
- ⑤自己研鑽力の育成
 - －各種外部研修会の紹介

(3) シンプルで上質

- ①各種ガイドラインの策定
 - ・曖昧だった各種対応方針やルールの明文化

- ②教育の質を高める意識変化
 - ・「子どもらしくていい」→「子どもたちはもっと伸びる」
 - ・「こんなもんだろう」→「プロ意識中途半端な発想から脱する
 - ・基本的マナーの日常化
- ③ペーパーレス化
 - ・コピー用紙をファイルして保存→PDF化してデータ保存
- ④ホームページのリニューアル
- ⑤学期毎の家庭向け通知「レポート」の見直し

2. 2021年まで積み残されていた7つの課題への次の様に取り組んだ

(1) 基礎学力の定着と指導力育成

- ①二人担任制
- ②学習指導要領の意識化
- ③長野市内小学校への参観
- ④経験豊富な実績ある教育アドバイザーの参画

(2) 働きやすい職場環境及び残業時間の削減

- ①二学期制の導入
- ②金曜日午後の授業外部委託（クラブ活動へ）
- ③会議資料・検討資料のペーパーレス化
- ④校務分掌削減
- ⑤ノー残業 day（水曜日）設定
- ⑥非常勤教職員の増員
- ⑦残業申請許可制導入

(3) チームとしての職員集団の連帯感促進

- ①勤務時間開始と共にスタートする職員朝会
- ②職員及び来校者の動きを知る月暦の導入
- ③情報共有ツールと機会の創出
- ④互いを知るプレゼンテーションの実施
- ④非常勤講師との関係づくり

(4) 児童生徒数の増加策

- ①説明会及び学校見学会の年間計画への位置づけ
- ②各種メディアへの働きかけと表出
- ③幼稚園・保育園への営業
- ④学校開放日（Open Day）の実施（2回）
- ⑤行政・NPO（ふるさと回帰センター）との連携
- ⑥飯綱西区コミュニティへの参加
- ⑦GH 通信及び各種公開イベントの芋生地区広報

(5) 国際バカロレア PYP 認定校資格取得

- ①国際バカロレア指導専門家の招聘
- ②IB 先進校の参観
- ③研修会の定期的な実施
- ④IB コーディネータ、コンサルタントの配置調整
- ⑤若草幼稚園（認定校）、長野日大小中高校（候補校）、松本国際高校（認定校）との連携

(6) 保護者との関係づくり

- ①3 者面談の実施
- ②自由に参観できる授業参観 Day の実施
- ③グリーン・カフェ（保護者との懇談の場）、GH 通信の発行
- ④課題をもつ保護者との個別懇談

(7) 教育・指導環境の見直し

- ①グリーン・ヒルズ内会計の在り方の見直しと透明化
 - ・学級活動費、資源回収、写真販売、補助金事業等
- ②小中学校併設による日課、指導の見直し
- ③安全管理
 - ・校外学習等における子ども送迎の運転 ・避難経路の見直し
- ③校舎の利活用
 - ・理科室、保健室、ミーティングルーム、応接室 ・各種教材、備品の整理
- ④地域との連携
 - ・飯綱観光協会、NPO 法人よっこらしょ、アソビーバ（中央タクシー）、森の駅（エターナルストーリー）、等との連携の模索
 - ・飯綱西区、芋井地区住民自治協議会との関係づくり